

「夢洲の鳥たちをみて
フランスからの手紙」
人工埋立地の復元を」

文・写真

エミリー・ルトゥルゼイ
(文化人類学者・オンライン雑誌編集者)



写真-1 夢洲に初めての見学2022年

大阪自然環境保全協会と夢洲生き物調査グループのメンバーのエミリーです。文化人類学者として大阪湾で、人間や生物と、ゴミの埋立地などのあらゆる産業インフラとの関係について2年近く、調査を行ってきました。

初めて夢洲に行ったのは2022年の真夏でした。同年の春、すでに地盤改良のために工事が行われていて、最初は何もない工業地帯のように見えました。しかし、自然はすぐに戻ってきていました。鳥、昆虫や植物がたくさんいることを自分の目で見て、私も生き物調査グループのメンバーと同じようにとても驚きました。夢洲生き物調査グループの活動については、以前から情報収集はしていましたが、最初に訪れた日、どこまで夢洲に深く関わっていたのを実感しました。そして、2019年以降のすべての調査や手続きが記録されている『都市と自然』のアーカイブでそれを確認することができました。

夢洲に野鳥やいろんな生き物の専門家が長い間訪れていたことを知ったのは、2020年代の画像を見た後でした。しかし、夢洲が鳥の楽園であり、そのために南港野鳥園とともに生物多様性ホットスポットとして府のレッドリストに登録された2010年代を、残念ながら私は知りません。政府や企業は、夢洲を金儲けにならない限り役に立たない「負の遺産」とみなしてきたか

らです。もちろん、松井前市長が言うように、「野鳥のために埋立地を作ったわけではありません」。確かに廃棄物を埋めるための島です。しかし、海岸や多くの干潟がコンクリートで固められ、大阪湾は長い間そこに定着していた生き物たちから自然を奪ってきました。したがって、スペースができたときに鳥類や植物などが定住するのは、非常に正当なことだと思えることができます。同様に、漁師、船乗り、海水浴客は、湾の所有権を主張すれば、とても正当に見えます。

コアジサシは長い間夢洲に営巣しており、地盤改良のプラスチックドレーンの中にも繁殖していました。最近はその島のフェニックスセンターの新島にいるようですが、その島が埋め立てられて開発されたらどうなるのでしょうか。ただし、コアジサシの場合は特殊で、産業施設に適応することができます。フランスでは、有名なアジサシの人工サイトが原子力発電所の中にあります。しかし、シギ・チドリはどうでしょう？

私はこれまで、人間と植物の関係や園芸技術の研究が主だったので、鳥の世界については何も知りませんでした。シギ・チドリや渡り鳥の世界を知ったきっかけは大阪湾でした。まず夢洲生き物調査グループのメンバーと、そして私もメンバーである野鳥の会大阪支部のメンバーと、さらに南港野鳥園でも学びました。海鳥は他の種



写真-2 夢洲調査2023年



写真-3 南港野鳥園ベントス調査2023年



写真-4 共生の森での湾岸観察2024年

以上に絶滅の危機に瀕しており、その激滅にはさまざまな原因があると思いますが、なかでも最も重要なのは干潟の減少と湾岸の人工化であることが分かりました。鳥たちは、私が南港野鳥園での調査で初めて観察ができたベントスを餌にしていますから。

アメリカの作家で野鳥愛好家のジョナサン・フランゼンが言っているように、「海鳥が完全に姿を消しても、それに気づく人はほとんどいない」。だからこそ、渡り鳥やシギ・チドリはもっと知られ、守られなければならないのです。

大阪湾で学んだ鳥のもう一つの特徴は、鳥が景観を作り出す能力です。海岸の埋立地の風景は、実は鳥が運んだ種子の植物でできていることがほとんどです（もちろん、帰化植物もたくさんあります）。私は2つの人工林プロジェクトに関わっているので、このことをよく考えています。ひとつは堺7-3区の共生の森です。共生の森は、廃棄物の埋立地ですが、不思議で素晴らしい場所です。もうひとつは、アマフォレスト

の会のメンバーとして私も参加している尼崎の森です。

しかも、この大阪湾の環境は基本的に埋立地でできているので、インフラとしての埋立地にも興味があります。ラッキーなことに、これはまさに保全協会の高田元会長の専門分野であり、高田先生に多くのことを教えてもらいました（フランスには埋立地はほとんどなく、これは新たな経験でした）。それによって私には夢洲を調べるきっかけになり、長い間興味を抱いてきた「ゴミ・廃棄物」という問題を調査する機会となりました。

今フランスにいて、これらすべてについて本の原稿を準備しています。またすぐ関西に戻ってきたいです。でも、夢洲に戻れるのかどうかは分かりません。鳥がどうなってしまったのか心配です。有害施設として悪名高いカジノの話は別にしても、関西万博のような大きなイベントは無益と感じているし、テーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」の「いのち輝く」とい

う言葉は重大な矛盾に満ちています。

日本は自分の国ではないので、それについて日本で立場に立つことは難しいですが、こうした祝賀資本主義のプロジェクトがフランスで行われていたら、私は反対します。私にとって本当の負の遺産とは、自然が破壊されているし、人間間の不平等が増えるし、気候変動を抑制する対策が妨げられているにもかかわらず、経済成長が良いことだという考え方です。

確かに経済を優先にしている主流な思想に逆らうことは難しいが、自然を愛し、自然を守るために集まり、公害に抗議し、街の木を守る人たちは、解決策の一部であり、未来のために働いているのだと思います。この人たちは私に希望を与えてくれます。

最後になりましたが、大阪湾岸でいろいろなことを説明していただいたすべての方々に感謝しています。夢洲生き物調査グループと保全協会の信頼と協力にも感謝します。また近いうちにお会いできることを楽しみにしています。